事前復興まちづくり訓練

羽田地区（羽田１～６丁目）

ふっこうまちづくりニュース vol.3

事前復興まちづくりに取り組むことで
SDGs の推進につながります

第２回事前復興まちづくり訓練を開催しました！

令和５年１２月２０日（水）に「第２回 羽田地区 事前復興まちづくり訓練」を開催し、２０名の方が参加しました。東京都立大学 都市防災・災害復興研究室の学生から羽田のまちづくりについて提案があった後、グループワークを通じて、復興過程・復興後のまちの将来像について検討をしました。

●当日のプログラム

１．開会あいさつ
２．第１回訓練の振り返り
３．『もっと羽田をこうしたい！』～学生からの提案～
４．グループワーク
　「まちの将来像を考える（ビジョンゲーム）」
５．アドバイザーによる解説・振り返り

第２回訓練の様子をご紹介します！

●『もっと羽田をこうしたい！』～学生からの提案～

／ 東京都立大学 都市防災・災害復興研究室

グループワークに入る前に、東京都立大学 都市防災・災害復興研究室から羽田地区の事前復興まちづくりについて提案をいただきました。

羽田地区の“課題”を“可能性”として捉えた活用の視点から、「路地」「水辺」「高架下」について提案があり、訓練参加者の皆さんとの意見交換では様々な感想や質問が出ました。

路地　シン・羽田のロジマチ
～路地の風景を活かした建築まちづくり～

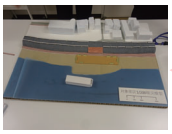
路地が多い街区において、無接道や接道不良の建物を路地再生住宅として共同建て替えすることで、火災の延焼や道路閉塞を防ぎます。

また、中庭サロンやシェア花壇等、コミュニケーションの場を設けることで、ほど良い距離間でほかの住民の生活感を感じられる羽田地区の路地の魅力を継承します。

路地での近所付き合いは残していきたい！

水辺　船でミズギワをまち拠点
～羽田らしさを連想する水辺空間～

羽田地区の風景・産業の象徴である船を活用した地域の拠点「コミュ船（コミュニティセンター船）」を多摩川に浮かべ、水際と周辺の一体的空間整備を行うことで、「羽田のまちと川との関係性の再構築」を目指します。



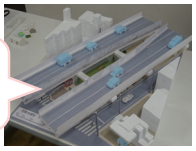
コミュ船は図書館や学童、防災倉庫としても利用します！

漁師町としての歴史や魅力を活かしたい！

高架下　災害後の高架下利用
～ペット共生型避難拠点として～

六間堀緑地を地域住民とペットが安心して利用できる「ペット共生型避難拠点」として活用します。

平常時もドッグランや公園としての機能を持たせることで、高架下の利用者を増やし親しみやすい場所にします。



六間堀緑地は道路幅員が広く明るいため活用が期待できます！

復興時に高架下で集まり交流できると良い！

●グループワーク「まちの将来像を考える（ビジョンゲーム）」

被害想定に基づき、どのような「まちの将来像」を描きながら復興を進めていくかを議論しました。「復興過程（仮住まい・復興準備）」と「復興後」のそれぞれのフェーズで議論し、安心して暮らせる住まいの確保や災害に強い道路・公園の整備、多世代での交流や地域コミュニティを創出するための取組などに関する意見を多くいただきました。

●主なご意見

復興過程（仮住まい・復興準備）

- まずは、被災者が家族構成に合わせて生活できる住まいが羽田地区内に必要！
- 生活の復興のために仮設商店街が必要。商店街の中に行政の施設やコミュニティセンターなどの施設もあれば、人々が集まる場所になる。
- 多世代が集まり、交流や復興に関する意見交換ができる場があると良い。若い世代も来やすい雰囲気づくりが大切！
- 復興に向けて、正しい情報を入手できる拠点が欲しい。大田区とも情報交換ができると良い。
- 近隣の大きい公園について、どこをがれき置き場や応急仮設住宅にするのか等、役割分担を事前にしておく必要がある。

復興後

- 自力で住まいを再建するには資金面の課題が大きい。現在の近隣の関係性を継承し、多世代の住民が顔を合わせて暮らせる復興共同住宅が必要である。
- 復興共同住宅の近隣には、多世代が交流できる拠点が必要である。
- 現在計画されている道路を整備し、災害に強い市街地づくりが重要である。
- 羽田地区に点在する小規模な公園を復興に合わせて集約し、大きな公園を整備したい。
- 災害に強いまちづくりに加え、地域性やデザイン性を考えて、羽田の歴史や文化を活かしたまちづくりが必要である。
- 多摩川河川敷を整備し、多世代が集い、回遊できる魅力的なスポットにしたい。災害時の活用も期待できる。

●アドバイザーによる解説・振り返り　／東京都立大学 市古太郎 教授

訓練の意見交換では、参加者の皆さんの「自分たちのまちは自分たちで守る」という想いを感じました。

これまでの訓練で皆さんからいただいた意見を分かりやすくまとめ、区で「事前復興まちづくり計画」の案を作成し、次回の訓練でお示しします。

計画を作成して終わりではなく、計画や復興後のまちの将来像に基づき、平時から発災時を想定した訓練などを実施していくことが大切です。

アドバイザー

市古（いちこ）　太郎（たろう）教授
東京都立大学 都市環境学部
都市政策科学科 教授
大田区都市計画マスタープラン
改定委員（令和４年３月）

●参加者の感想

- 学生さんからの提案は、これまで思いつかなかった発想で面白かった。
- グループワークでは、人それぞれの意見が聞けて良かった。
- 今後も、地域について話し合う場を継続的につくっていくことが必要。

今後のスケジュール

令和６年４月２３日（火）１８：００～２０：００
第３回　事前復興まちづくり計画をまとめる

訓練を踏まえて区職員が作成した「事前復興まちづくり計画（案）」についてご意見をいただき、平時からできるまちづくりについても検討します。

発行・問合せ先
大田区 まちづくり推進部 都市計画課
〒144-8621　大田区蒲田五丁目 13 番 14 号
TEL 03-5744-1333　FAX 03-5744-1530